



ながれ

家庭学習のすすめ

副校長 深尾 剛

風薫る5月。校庭のこいのぼりの様に、子供たちも元気に学校生活を送っています。早いもので、平成28年度が始まってからひと月がたちました。1年生も学校に慣れたようで、楽しい声と笑顔が教室にあふれています。

4月の保護者会では、学校の教育活動についてたくさん話をさせていただきました。その中でも力を入れていきたいのは、基礎的・基本的な学習内容の定着です。学習を充実させて児童の力を付けていきたいと思えます。

さて、次の数字は何を表しているのでしょうか

20分後42%、1時間後56%、1日後74%

これは、ドイツの心理学者・ヘルマン・エビングハウスが人間の脳の忘れる仕組み（長期記憶）について研究して導き出した結果です。これを見ると驚くべきことに、人間の脳は何かを学んだとき、次の日には4分の3を忘れてしまっていることが分かります。しかし、エビングハウスは、定期的に復習をすれば、その記憶は確実に定着する確率が高くなると言っています。1日後に26%は定着しているわけですから、このタイミングで再度学習することにより残りの74%の内の26%がさらに定着し、全体のおよそ半分近くの内容を身に付けることができます。これが1日（24時間）より早いタイミングで、複数回行われると効果が高いということになります。繰り返しの復習はとても大切だということが、エビングハウスの実験からも分かります。

学校では、授業で「分からないこと」を「分かる」ように、そして復習で「分かる」から「できる」ように、子供たちの力を高めていきたいと思えます。学校でも朝学習や授業で復習を行っていきいますが、その日のうちに復習のできる「家庭学習」は、子供に力を付けていくための大きな支えとなります。4月の保護者会で、学校から配布しました「家庭学習のすすめ」にも書かせていただきましたが、学校と家庭が連携して子供たちに学力を身に付け、子供たちの自己実現の糧となるようにしていきたいと思えます。御協力お願いいたします。

あいさつと規範意識

生活指導主任 小林 裕美

「おはようございます。」元気な声が心地よく響いています。子供たちのあいさつの様子から、気持ちが見えてきます。戸三小でも、子供たちにあいさつの大切さ考えさせ、気持ちの良いあいさつができるように指導してきました。相手の気持ちを考えたあいさつをすることで、人と人のコミュニケーションの力が培われます。今年度はあいさつ月間を設けて、地区班ごとにあいさつ当番の活動を計画しています。

また、「戸三のよい子のきまり」を各クラスで確認し、きまりを徹底させていこうとしています。きまりを守る意識、規範意識は社会に出たときに、行動の軸となっていく大切な要素です。きまりを守ることで、互いに気持ちよく生活ができるのだと、気が付き行動できるようにしていきたいです。そのため、各クラス、各児童が目当てを決めて取り組み、振り返る活動をしていこうと計画しています。

御家庭でも、あいさつのこと規範意識のことを話題にして、あいさつやきまりを守ることの大切さを教えていってください。

運動会に向けて

体育主任 永井 輝彦

今年度も運動会の季節が近づいてきました。運動会実施日は5月21日（土）です。よい天気の中、開催できることを願っております。これから運動会に向けて、各学年、安全を第一に考え、計画的に一生懸命練習に取り組んでいきます。

どの学年も、これから限られた時間の中で練習します。1回1回の練習を大切にしながら、技術面だけでなくクラスの団結、異学年との協調性などを身に付け、さらに成長した姿が見られるよう、指導していきます。

何より児童一人一人が、「やりきった」と達成感を味わい、思い出に残る運動会にしていきたいです。ぜひ、今回もたくさんの声援と励ましをいただき、子供たちと一緒に運動会を成功させたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。